

# 普及指導員調査研究報告書

課題名：はなっこりーの長期・安定出荷に向けた作型検討

岩国農林事務所農業部 担当者氏名：陶山 紀江

## <活動事例の要旨>

はなっこりーの長期・安定出荷に向けた作型誘導の資料とするため、はなっこりーMEの定植時期が時期別の出荷量に及ぼす影響について検討を行った。

### 1 普及活動の課題・目標

J A岩国市管内では、9月下旬定植の「はなっこりー」（以下、既存）と10月中旬定植の「はなっこりーME」（以下、ME）を組み合わせ、11月から4月まで出荷を行ってきたが、比較的価格の確保できる年内～1月の出荷量が少なく、2月後半以降の気温の上昇とともに出荷量が増加して価格の低下を招いてきた。

そこで、MEの定植時期を早めた場合の時期別の出荷量を把握し、年内から3月まで出荷量が平準化できる作型の組み合わせを検討し、作型誘導に活用する。

### 2 普及活動の内容

- ・前年度実施したMEの10月1日定植作型試験の結果を検討し、本年度は9月25日定植作型について試験を行うことを決定し、岩国市通津に試験圃を設置した。
- ・取組はJ A担当者と連携して行うとともに、部会員に対してもシミュレーション結果と試験の実施を周知し、作型誘導に向けた意識づけを行った。

### 3 普及活動の成果

#### (1) 生育調査結果

平成26年の気温は、9月下旬から11月上旬は平年並みかやや高め、11月下旬は平年より高くなった。12月は平年より低く、1月以降は概ね平年並みかやや高めで推移した（図1）。

平成26年の頂花蕾摘み取り時期の生育は、11月の気温がやや低めで推移した平成24、25年に比べ旺盛で、出荷開始も早くなった（表1、2）。

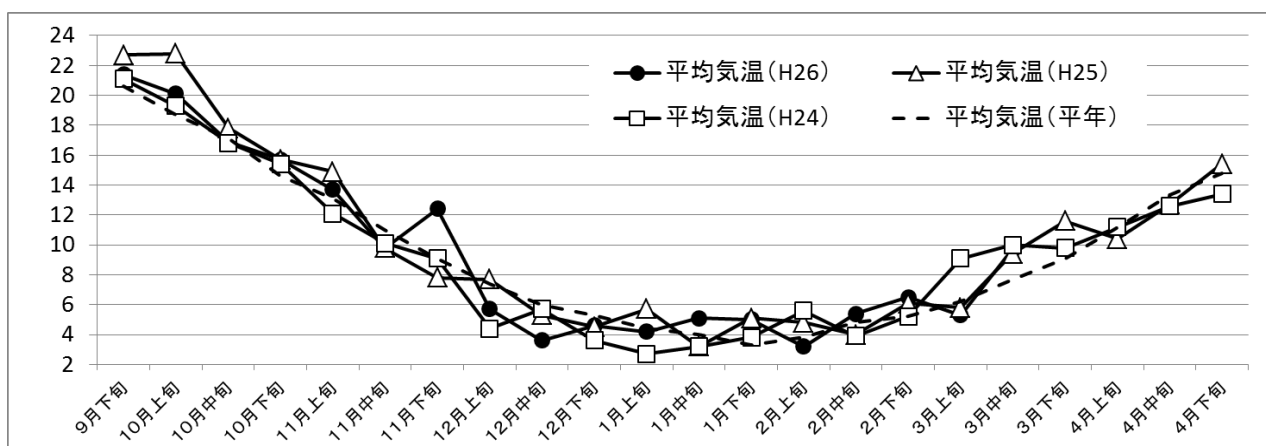


図1 生育期間中の気温の推移

表1 栽培概要

年度	作型	播種日	定植日	頂花蕾摘み取り時期	出荷開始
H26	9月25日定植	9/1、5	9/25、26	10/23～1月初旬	11/18
H25	10月1日定植	9/9	9/30、10/1	11/9～1/14	12/28
H24	10月15日定植	9/22	10/15	12月上旬～1月下旬	1/31

表2 頂花蕾摘み取り時の生育

年度	作型	調査日	草高(cm)	最大葉		生葉数(枚)	調査時頂花蕾摘取割合(%)
				葉長(cm)	葉幅(cm)		
H26	9月25日定植	11/12	64.9	60.3	22.7	11.0	30.0
H25	10月1日定植	11/14	52.1	53.0	24.1	11.0	5.3
H24	10月15日定植	12/12	42.5	47.8	23.3	—	—

(2) 出荷量調査結果

ア 試験圃の出荷量

9月25日定植作型は、出荷開始から2月まで、大きなピークなく出荷が続いている(図2)。これは、作型の前進化とともに、12月から1月初旬の低温や積雪で、花茎の伸長が抑えられたことが一因と考えられる。

なお、3月以降の出荷量については、出荷終了後に検討予定である。

イ 部会全体の出荷量

11月から2月までは、平成24年、25年に比べ月による差が小さくなっており、作型誘導により一定の効果が出ていると考えられる。しかし、試験圃同様気温の影響があると同時に、試験圃では問題のなかった1月後半以降のヒヨドリ被害による出荷量の減少が影響していると考えられ、今後検討が必要である。

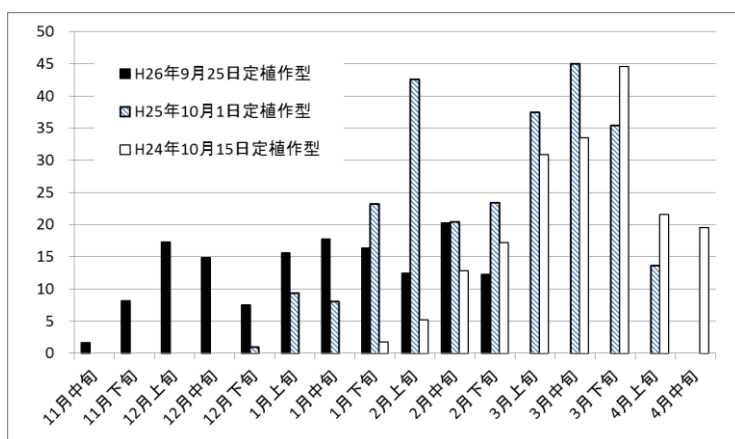


図2 試験圃場の時期別出荷量 (kg/a) ※H26年は2/26までのデータ

表4 部会の作付面積と品種・定植時期別面積割合の推移

年度	作付面積(a)	品種・定植時期別の面積割合(%)			
		既存	ME		
			9月下旬	9/25	10/1
H26	28	59	14	0	27
H25	31	63	0	8	29
H24	33	64	0	0	36

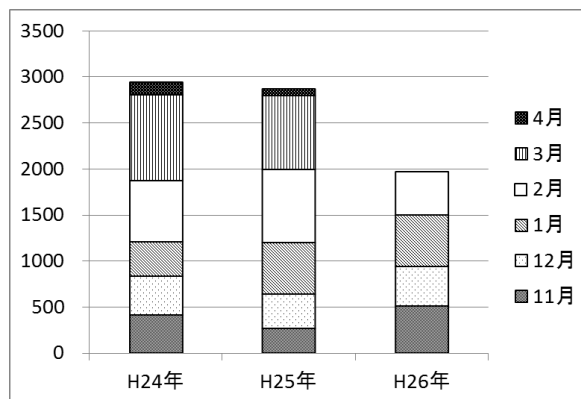


図3 部会の時期別出荷量の推移 (kg/作付面積)

4 今後の普及活動に向けて

- ・試験結果により、組み合わせる作型及び面積割合を検討し、作付誘導を行う。